

19. 飛騨地域における自然環境の保全・創出について

～ アカンダナ地区哺乳類ボックスカルバートの利用状況 ～

国土交通省 中部地方整備局 高山国道事務所
調査課 調査第二係長 戸川 一彦

1. 背景・目的：

近年、道路での動物に起因する交通事故の増加、山間部への高速道路等の建設による動植物への影響が問題となっており、道路整備を進める上で動植物の保全や自然景観との調和に留意することが重要となっています。

このため、高山国道事務所では学識経験者からなる「飛騨地域エコロード検討委員会」を設置し、事業実施において、飛騨地域内の動植物にやさしい道づくりのあり方・共生について調査を行い、その整備方針・施工方法等の検討をおこなっています。

2. 動物移動経路用ボックスカルバートの概要：

観光地として有名な上高地は、自然環境の保全からマイカー規制が敷かれており、来訪者は上宝村平湯にある「アカンダナ駐車場」で乗用車を置き、バスに乗り換えて上高地へと向かうこととなります。

当該地域は、ツキノワグマ等の哺乳類の良好な生息場所となっており、駐車場を整備することにより、その連絡道路が哺乳類の移動を分断、あるいは乗用車等による輪禍の発生が危惧されました。

このため、「アカンダナ駐車場」における哺乳類の移動路確保について検討を行ない、移動路を分断する道路下に大小1個ずつのボックスカルバート（動物の移動通路）を設けることとしました。

当該地域に生息するツキノワグマ等の大型哺乳類からネズミ類等の小型哺乳類まで様々な哺乳類が利用できるように、我が国では当時ほとんど事例のなかった同一地区に異なる大きさのボックスを設置しました。

ボックスカルバートの大きさは、大型のものが高さ3.0m、幅3.0m、延長30m、小型のものが高さ1.5m、幅1.5m、延長20mとしました。移動路の長さは、向こう側の景色や明かりが見える程度とし、生息する森林から移動路へ誘導するためにボックス前に落葉広葉樹を植樹しました。大型ボックスでは哺乳類が安心して移動路を利用できるように、地面に土を敷き、壁面に天然木を設置する等、試行的に様々な工夫を行いました。

3. モニタリング調査の概要：

動物移動通路用の哺乳類ボックスカルバートを平成9年度に整備し、その後、平成15年に利用状況に関するモニタリング調査を3回（冬季、初夏、秋季）実施しました。

調査方法は、熱感知式センサーカメラ（センサーカメラFieldnote）による24時間連続の無人撮影を行いました。

調査の結果、ツキノワグマなどの大型哺乳類、ネズミ類などの小型哺乳類及びコウモリ類の利用を確認することが出来たので、その結果をご紹介します。